

読者投稿欄「なまず通信」

神奈川県温泉地学研究所観測だより（以下、観測だより）では、読者の皆さまからの投稿欄を設けています。掲載記事に関するご意見・ご感想はもとより、皆さまが地震や温泉などについて身近に感じている事柄や、温泉地学研究所に対する叱咤激励などいろいろとお寄せいただければと思います。

○原稿は楷書体でお願いします。

○出来るだけ多くの方のご意見を掲載させていただくため、お一人様の文字数を全角で200字程度までとさせていただきます。

○紙面や編集の都合上、お寄せいただいた全ての原稿を掲載出来ない場合や、お送りいただいた文章を当所において一部編集して掲載させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

○お送りいただいた個人情報に関しては、当所において適正に管理するとともに、観測だよりのみに使用し、

目的外使用は一切行いません。

○投稿形式は自由ですが、このページ下段に簡単な投稿様式を用意しましたので、ご利用下さい。

（四角枠で切り取って、普通はがきに貼れるサイズとなっています。）

送付先について

郵送・FAX・フォームメールでお受けしています。宛先は下記までお願いします。

郵送：

〒250-0031

神奈川県小田原市入生田586

神奈川県温泉地学研究所

編集部会 宛

FAX：0465-23-3589

フォームメール：https://cgi.pref.kanagawa.jp/contents/form_mail/request_form.php

「お問い合わせ内容」のところに
ご記入下さい。

お便りのご紹介

前号（第61号）を送付した際に、読者の皆様からのご意見やご感想をお寄せいただきました。掲載可としていただいたハガキの中から一部を紹介させていただきたいと思いません。

名古屋市 久田様；

1994年の東南海地震を体験して67年になります。東海、東南海、南海の連動が盛んにいわれて、前兆すべりを検知する歪計などの観測網が設置されていますが、深いプレート
の海溝型に対応できるか、予知に疑問を持ちます。国の政策として更なる研究が望まれます。

小田原市 大山様；

61号は話題も多く、内容も濃いもので、興味深く拝読しました。研究所が創立50周年と知り感深いものがあります。私が30周年誌を手

お名前：

ご住所：〒

(TEL： — —)

ご意見等：

お名前・住所（市町村名まで）の観測だよりへの掲載について

掲載可 匿名希望 その他(具体的に：)

がけた時から、さらなる発展と社会的期待を背負って歩んでいることに大変喜ばしく敬意を表します。

静岡県浜松市 秋本様；

大震災が起きましたが水位の大きな変化が見られませんでした。3月9日10日で水位が上がらず変かな?と思った程度でした。

東京都品川区 丸山様；

観測だより有り難うございます。そして50周年おめでとうございませす。充実した内容でなかなか読み応えがあります。

3月11日以降、当方ではほとんど被害はありませんが、毎日のように余震があって不安な日々を送っています。

愛知県碧南市 河原様；

3月11日の地震についてなまの会で予知したところがありましたでしょうか？

静岡県浜松市 渡辺様；

3月11日の大地震は水位の測定では予知できなかったのですが、事後ではおおきな水位の変化があったのですか？

兵庫県丹波市 荻野様；

毎日のテレビ・ラジオの報道でなんと地震発生ニュースが多いことでしょう。日本は地震火山活動の活動期となったのでしょうか？

編集後記

観測だより第61号の読者の方々からお送り頂いた葉書・FAX・メール等のご意見・ご感想を掲載させて頂きました。誌面の都合上、抜粋させて頂いたり、掲載出来なかったお便りが多数ありましたことをお詫び申し上げます。

前回61号まで巻末に日本国内で発生した震度3以上の地震について「地震日誌」として掲載しておりました。しかし、こうした震度情報は現在気象庁のホームページ(http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/shindo_db/shindo_index.html)から取得できるため、本号から掲載をとりやめることといたしました。なお、神奈川県内で有感となった地震の一覧については、従来通り地震活動報告の中で掲載しております。

2011年東北地方太平洋沖の前に前兆現象が捉えられたかにつきまして、なまの会の会員の皆様からお問い合わせ頂いております。本号「なまの会」地下水位・温泉温度等観測結果の中でも報告されておりますが、地下水位については明らかな異常は認められませんでした。他の研究機関で震源域周辺の地震活動など様々なデータを見直し前兆現象がなかったかどうかの検証が進められており、巻頭言に紹介されているようにいくつか前兆現象であった可能性のある事例が報告されています。

3月11日以降東日本を中心として広い範囲において地震活動が活発になりました。皆様もテレビ等で頻りに地震発生情報が伝えられ不安に思われたと思います。地震で破壊された断層近傍の余震活動もありますが、それ以外にも地震により日本列島に作用していた力が大きく変わったことにより誘発された地震もあります。

東北地方太平洋沖地震が発生する前まで、日本列島は沈み込む太平洋プレートによって常に東西方向の圧縮の力を受けていました。ところが、この地震が発生することで、これまで東西に圧縮されていた力が解放され、逆に東西方向に引き延ばされる力が東日本を中心とする広い範囲に作用しました。実際に、宮城県牡鹿

半島に設置されているGPS地殻変動観測点(国土地理院)では、地面が東方へ5.4m移動したことが観測されました。こうした地殻変動は広い範囲で観測され、神奈川県内でも、地面が数十cm東方へ移動したことが観測されました。

神奈川県内では、3月11日の地震直後から箱根火山において地震活動が活発化しました(本号「神奈川県内およびその周辺における2011(平成23)年の地震活動」をご覧ください)。また3月15日に、富士山直下において、マグニチュード6.4の地震が発生し、神奈川県内では最大震度5弱が観測されました。こうした、地震活動も東北地方太平洋沖地震によって、地殻に作用する力が変化したことにより誘発されたものと考えられています。

3月11日14時46分頃、温泉地学研究所において強くそして長い揺れを感じました。当時、研究所内にいた職員全員が、これはただごとではないと感じ地震観測室に集まりました。すぐに、東北地方で巨大な地震が発生したことを知り、さらに津波の映像が写しだされたとき皆が啞然としたことを覚えています。そうした状況のなか、突然足下から強く突き上げるような揺れを感じました。そのとき箱根火山では地震活動が活発化しており、箱根火山で発生した地震による揺れだったのです。そこから、職員総出で箱根火山の監視体制に入りました。

東北地方で発生した巨大地震は、私たちに大変大きな衝撃を与えました。この地震のことを詳細に正しく理解し、その結果を今後の地震防災に役立てていくことが研究者に科せられた責務だと強く感じております。皆様の安全・防災に寄与できるよう、今後も調査、研究、アウトリーチ活動に努めてまいります(行)。